

「Alive」

詩編 27編1節

聖学院大学 人文学部 111A 波多 栄美

「Oceans (Where Feet May Fail)」

by Hillsong United

I will call upon Your name
Keep my eyes above the waves
My soul will rest in Your embrace
I am Yours and You are mine

神様という存在の内に留まるなら、人生の中で起こるどんな試練をも乗り越えていける。そのような内容の曲。私がこの曲に共感する理由は、この神様という存在が私の内にも明らかになっているからです。

クリスチャン率が1%以下の日本では珍しいですが、私は家族が皆クリスチャンという環境に育ちました。高校生になるまでは、神様を信じるということが分かりませんでした。高校入学とともに、北海道から東京に家族で引っ越すことになり、友達もいなく慣れない環境の中で孤独を覚えました。また高校生の時期には、「自分は何者で、何のために生きているのか」という人生の問いへの答えを必死に探していました。いわゆる思春期の時期です。

そこで、私は聖書を読み続けてみました。また教会に行き、メッセージを聞くうちにモザイクがかかっていたものが晴れていくような気がしました。数秒後何が起こるか分からないこの世界、社会価値観も変わっていく不安定な世の中が語ることも、聖書が何千年も前から歴史的にも論理的にも示されている神様が語る事が真実であると確信し、私は生きて働いている神様を信じました。その後、高校二年生のときに10時間に及ぶ手術を受けました。術後、私は呼吸もうまく出来ず、目も開かず、身体も動かない中で、自分の力では生きていないことを痛感しました。自分は生かされた存在なのだ気づかされました。神様は、私がこの世に存在する意義、また私の人生には神様の目的があることを教えてくれました。この経験により、身体的にも精神的にも辛いことはありましたが、どんなに苦しいと思うようなことがあっても神様において全て理由があり、また全てのことが益となることを確信しました。私のことを、私自身よりもご存知である神様の存在を感じずにはいられません。また、留学の経験からこの信仰はユニバーサルなものであり、神様は国を越えて存在することを実感しました。

「Oceans」の曲にもあるように、どんな試練という波があっても神様とともに乗り越えるプロセスを歩み続けたいと思います。

2014年12月5日 聖学院大学 全学礼拝（学生の証し）